

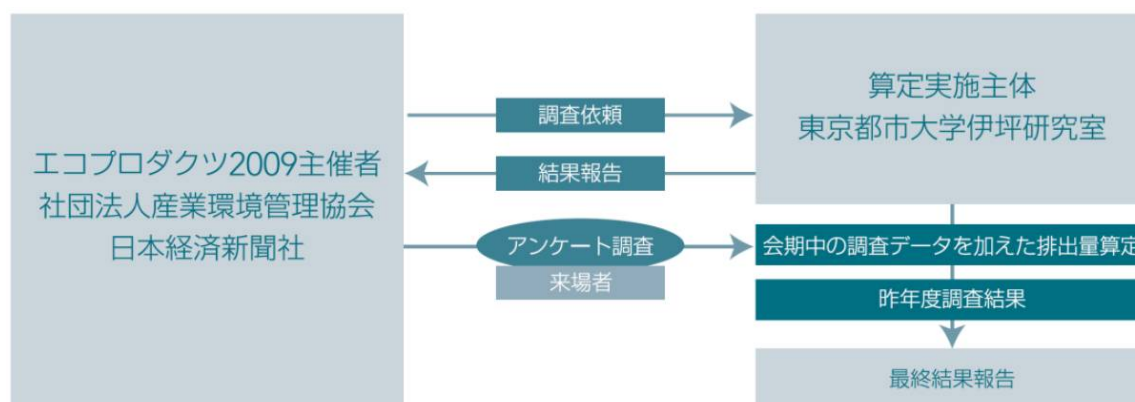
「エコプロダクツ2009におけるCO₂排出量測定調査」調査報告書(簡易版)

1. 成果の公開にあたって

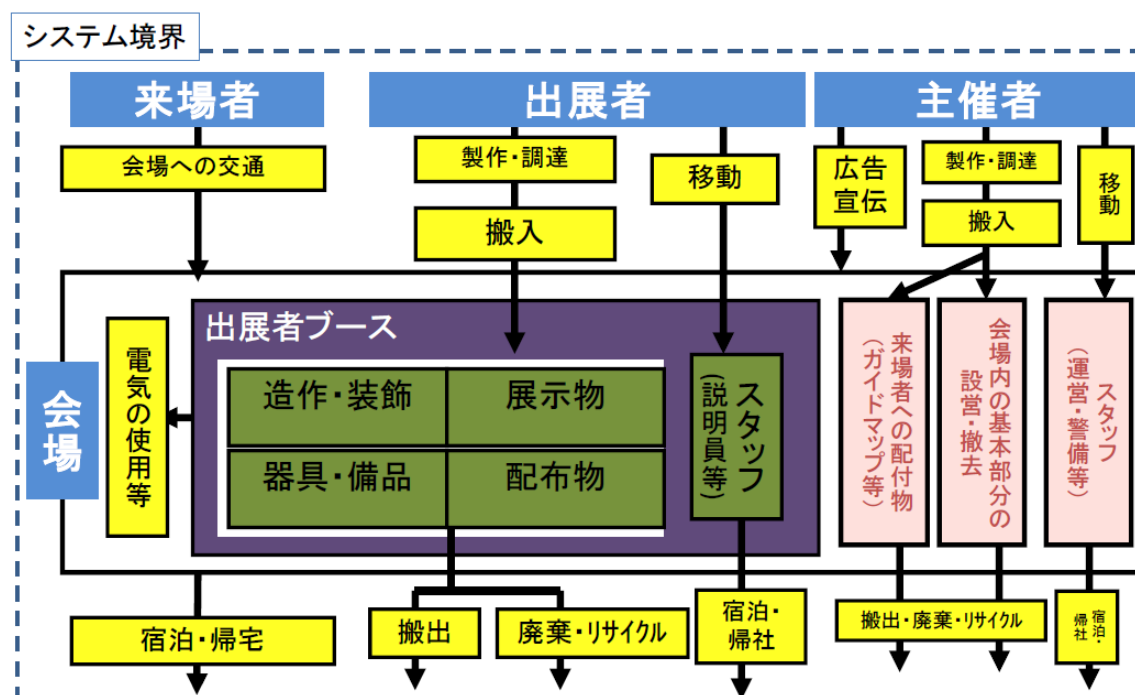
本調査はエコプロダクツ展示会からのCO₂排出量の継続的な削減を目的に展示会の主催者である社団法人産業環境管理協会と日本経済新聞社が東京都市大学 環境情報学部 准教授 伊坪徳宏氏に調査を依頼し、エコプロダクツ2009におけるCO₂排出量測定調査として実施したものです。本調査は一昨年(2008)のエコプロダクツ2008の開催時から開始しており、今回で2回目の調査となりました。展示会の全構成要素を対象にした評価事例としては展示会分野での初の試みであり、今後も調査方法の整備もあわせて調査していきます。

なお、排出量の測定を行う場合、測定条件などによって結果が異なる場合があります。

2. 調査の実施体制

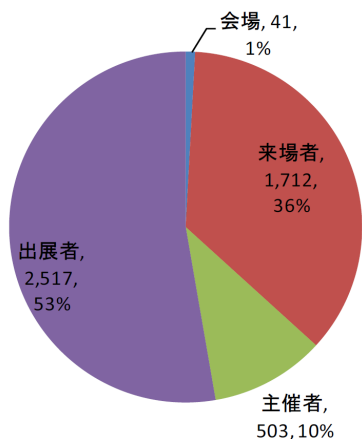


3. 調査の対象範囲

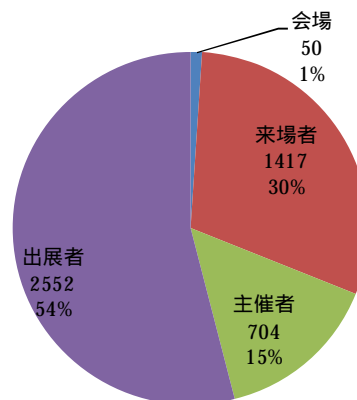


4. 調査結果

CO₂ 総排出量の(4773トン)の内訳 (2009年)



CO₂ 総排出量の(4723トン)の内訳(2008年)



エコプロダクツ2009の総CO₂排出量は4,773t-CO₂でした。
出展者に係る排出量がおよそ半分を占める結果となりました。

来場者や主催者の活動に伴う排出量も割合としては大きい中で
会場での電力消費等に伴う排出量の寄与は1%にとどまりました。

展示会の場合、年によって出展者数もブースの大きさも異なりますのでCO₂総排出量だけで単純比較をすることは困難です。参考情報として来場者1人当たりでみたCO₂排出量を示します。

昨年度と比べて、今年度は総排出量は若干増えましたが、来場者数が増えたため、1人当たりのCO₂排出量は1kg少なくなりました。エコプロダクツ展では、すべての関係者の参加のもとでCO₂削減のための試みを積極的に展開し、展示会自体のCO₂排出量の削減を目指します。

エコプロダクツ2009

来場者数: 182,510人

総CO₂排出量: 4,773t

1人当たりのCO₂排出量 約2.6kg

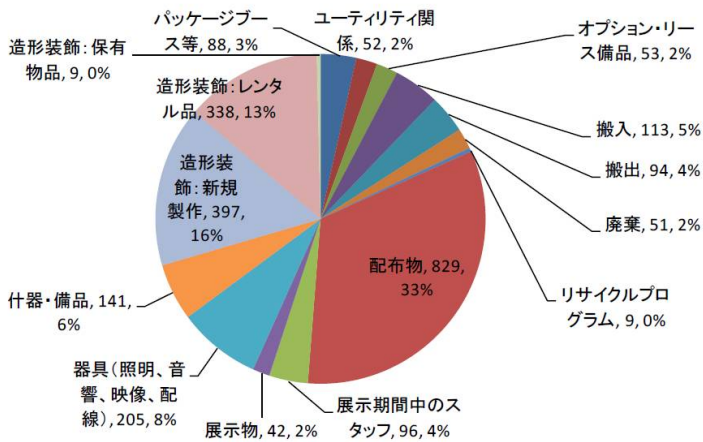
エコプロダクツ2008

来場者数: 173,917人

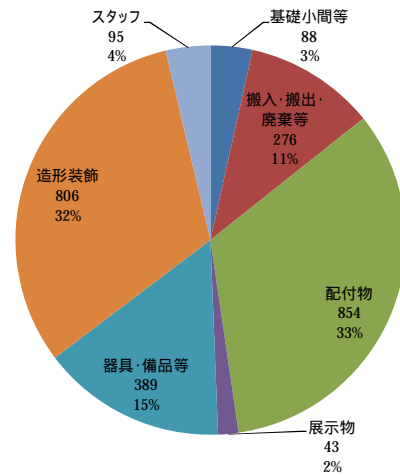
総CO₂排出量: 4,723t

1人当たりのCO₂排出量 約2.7kg

出展者起因の CO₂ 排出量(2517トン)の内訳(2009年)



出展者起因の CO₂ 排出量(2552トン)の内訳(2008年)

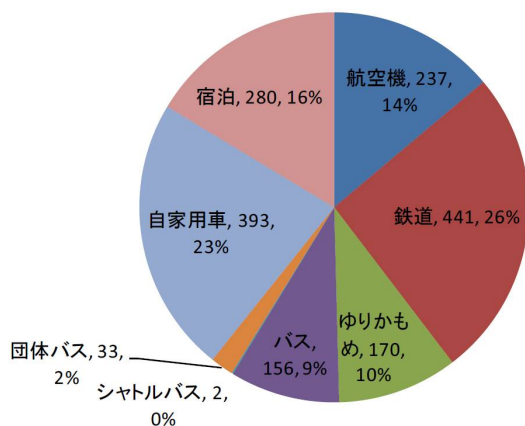


出展者の活動に起因する排出量では、配布物、造形装飾、器具・備品等及び搬入・搬出・廃棄などに関連して発生する CO₂ が主要な要素であることが分かりました。

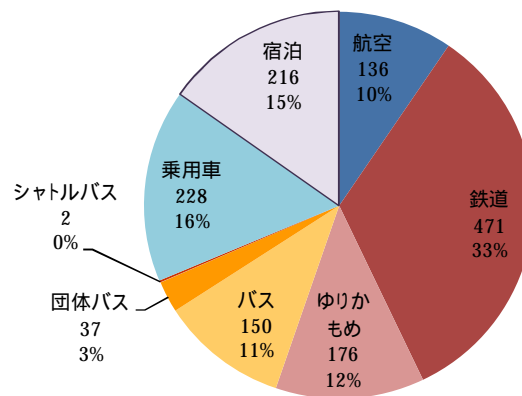
【CO₂ 排出量削減のポイント】

- なるべく環境負荷の低い配布物に変更することが必要です。
- 配布物を電子媒体で提供するなどして配布物の量を削減するなどの工夫が必要です。
- 造形装飾物のリサイクル、リユースを推進することが必要です。
- ブースの省エネを推進することが必要です。
- 照明を極力減らす工夫をすることで会場の電力使用による排出量を削減することもできます。

来場者起因の CO₂ 排出量(1712トン)の内訳(2009年)



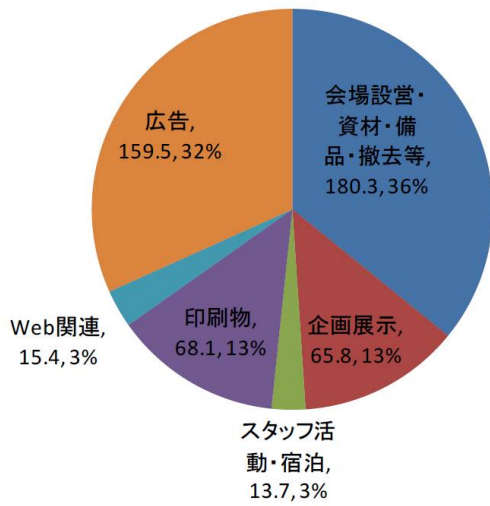
来場者起因の CO₂ 排出量(1417トン)の内訳(2008年)



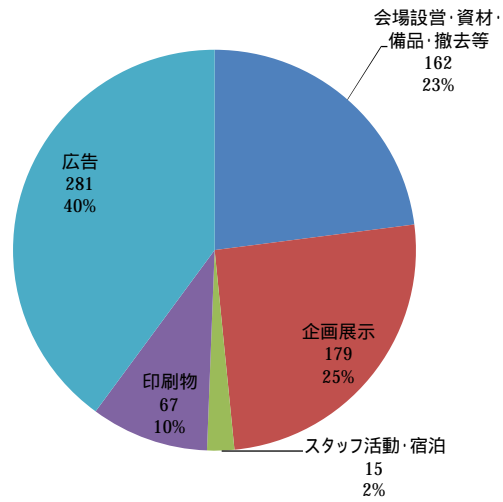
公共交通機関の利用促進により、CO₂ 排出量を抑えています。

一方で、利用率の少ない乗用車、航空が CO₂ 排出量が相対的に大きくなっています。遠方からの自家用車を使った来場をなるべく控えていただくことが CO₂ 削減には有効です。

主催者起因の CO₂ 排出量(503トン)の内訳(2009年)

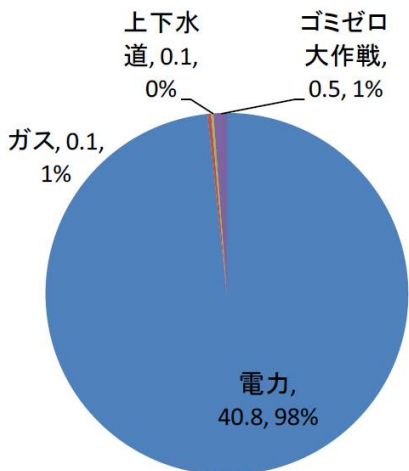


主催者起因の CO₂ 排出量(704トン)の内訳(2008年)

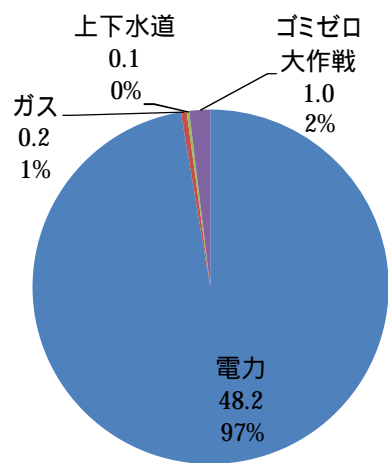


展示会に利用される設営、展示に関わる CO₂ のほか、広告に関わる CO₂ も無視できません。来場者に向けた展示会の案内方法の在り方についても検討することが期待されます。

会場起因の CO₂ 排出量(41トン)の内訳(2009年)



会場起因の CO₂ 排出量(50トン)の内訳(2008年)



全体の環境負荷の1%でした。
多くの出展者がLEDを利用するなど電力消費の低減に協力した結果が表れています。